2025 年度　地域コミュニティ学科　出張講義　一覧

No.	領域	専門分野	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
1	社会と産業領域	人文地理学・地誌学	大型店とまちづくり	なぜ商店街は衰退し、代わって大型店が広く展開するのでしょうか。大手資本店の寡占、チェーン展開、出店先の都市計画との関係などについて空間の論理にもとづいて一緒に考えてみましょう。東日本大震災による被災地の商業施設復興についても解説します。	岩動志乃夫	聴講形式	月	水	
2	社会と産業領域	人文地理学・地域研究（東南アジア）	東南アジア・東アジアの食文化について	普段、当たり前に食べている食事、そこには自然環境、文化、歴史、経済など地域の多様な要素が反映されています。この講義では、東南アジアと日本を含む東アジアの食について比較することを通して、地域の文化とその変化について考えていきます。	遠藤尚	聴講形式	水、木	火	
3	社会と産業領域	教育史・教育行政学	学校とは何だろう？	教育といえば、みなさんはまず学校を思い浮かべるのではないでしょうか。それほどに、われわれの生活において、学校は教育の場として当たり前のものとなっています。本講義では、なぜわれわれが学校に対してこのような意識をもつのかを、その役割との関係で考えていきます。きっと、みなさんの知らない学校の姿がみえてくるでしょう。	大迫章史	聴講形式	火（午前）、水（午前）	火	

No.	領域	専門分野	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
4	社会と産業領域	地域社会学・理論社会学	地域の助け合いを考える	今日、中央への人口集中が進む一方で、地方の過疎高齢化が深刻化しています。そうした地方の地域で生き残るには、住民の助け合いが重要な鍵を握っています。講義では、事例にもとづいて「地域住民の助け合いの論理」について考えます。	佐久間政広	聴講形式	木	水	
5	社会と産業領域	人文地理学・歴史地理学	産業の盛衰とその遺産の保存・活用	近年観光資源としての価値が評価されている産業遺産の、地域資源としての保存・活用のあり方について、各地の事例をあげながら考えます。	品田光春	聴講形式	月、水(午前)、金	月（午前)、金	
6	社会と産業領域	経済地理学・産業地理学	若者が起こす新しい地域づくりと、東日本大震災からの復興への応用・展開	近年、若者が地方に移住して、古民家を改修してパン屋や宿泊施設を作るなど、これまでにない新しい地域づくりを起こす事例が増えてきました。ツールとしてのSNSの活用は勿論ですが、その取り組み内容は面白く、なおかつ新鮮で学ぶことも多いです。この講義では事例を中心に若者がなぜ地方に移住して、新しい事を起こすのか？またそのメカニズムは何か？という視点から解説を行います。そして、最後に東日本大震災からの復興へ如何に応用できるかをみなさんと一緒に考えていきます。	柳井雅也	聴講形式と実習形式のいずれでも対応可	水、木、金	水、木、金	

No.	領域	専門分野	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
7	社会と産業領域	農業地理学・農村地理学	「農村」ってどんな場所？	日本の農村は少子高齢化や過疎化によって、その存続が危ぶまれている一方、近年は都市住民の移住や関わりによって新たな活力を得ている農村もあります。また、景観や食文化など固有の資源が評価されている農村もあれば、農地や隣地が開発され、再生可能エネルギーの拠点となっている農村もあります。 この講義では多様化している日本の農村の姿を都市との関係から学び、持続可能な農村について考えます。	庄子元	聴講形式	木	木	
8	健康と福祉領域	教育学・図書館情報学	学ぶための社会の仕組み	多くの人は小学校・中学校から高等学校・大学等で学び、社会に出てからもさまざまな学びの場を利用しています。この授業では、このような社会の仕組みがなぜ必要とされているのか、さまざまな考え方を紹介しながら考えていきます。	泉山靖人	聴講形式	金	水	
9	健康と福祉領域	社会福祉論・NPO論	NPO について学ぼう！！	NPO って何だろう？NPO は何ができるの？NPO でお金を稼ぐことはできるのか？等、NPO という言葉は聞いたことがあるけど、良く分からない！！そんな疑問にお答えします。NPO を作って社会で起きている様々な問題を解決し、「あなた」自身も HAPPY になる！！そんな方法を一緒に考えましょう！！	大澤史伸	聴講形式	月、木	水	

No.	領域	専門分野	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
10	健康と福祉領域	臨床心理学・教育臨床心理学	他者とかかわる	私たちは常に人とかかわりながら生活をしています。しかし、他者と円滑なコミュニケーションをとるのはそれほど簡単なことではありません。私たち一人一人が持っている「ものの見方」がコミュニケーションにどのような影響を与えるのかについて、簡単な体験を通して考えてみたいと思います。	清水貴裕	聴講形式	火、木	火、木	
11	健康と福祉領域	福祉社会学・理論社会学	外国人ケアワーカーはどうして日本にやってきたのか	人材不足の問題が叫ばれている日本の介護の現場では、いま、外国人ケアワーカーに注目が集まっています。彼らはなぜ働く場所として日本を選び、いまどんな生活をし、将来についてどのように考えているのでしょうか。この講義では、外国人が日本で介護の仕事をするということの意味を、さまざまな角度から考えてみます。	菅原真枝	聴講形式	火、水	火	
12	健康と福祉領域	社会教育学・生涯学習学	地域を学び、地域で活かし、地域をつくる	地域には、それぞれ歴史や自然、文化、芸術・芸能など、学びにつながる多くの資源があります。地域を学び、研究する学問領域は地域学と呼ばれます。地域を学び、地域で活かすことは一人一人の充実につながり、そして、地域の活性化にもつながります。これによって地域学そのものも豊かになります。地域の良さを知り、再発見し、そして地域の良さを創造すること、これが地域学の学びです。地域を学ぶことの意義、面白さ、可能性を考えます。	原義彦	聴講形式	水	火	

No.	領域	専門分野	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
13	健康と福祉領域	地域福祉学・社会福祉学	地域の福祉課題の抽出と解決策の検討	急速な勢いで進展する高齢化の影響は、多くの地域にさまざまな福祉課題をもたらしています。地域の福祉課題をどのように発見して、どのような解決策を講じればよいのかを、事例をもとに考えます。	増子正	聴講形式	月	木	
14	健康と福祉領域	特別支援教育・臨床心理学	インクルーシブ教育ってなんだろう？	障害のある人と障害のない人が共に学ぶ仕組みのことをインクルーシブ教育といいます。でも、ただ一緒にいるだけで全てがうまくいくわけではありません。障害のある人もない人も過ごしやすい学校や社会になるにはどうしたらいいんだろう？そんな問いを一緒に考えてみたいと思います。	一柳貴博	聴講形式	月	月	
15	人と自然領域	自然地理学・地形学	地域の地形から自然災害リスクを読む	自然災害の多くは、地形を変化させる（あるいは新たな地形を作る）自然現象が人間生活の場所で発生した場合に生じています。地形に関する基礎知識をもとに、地域の自然災害リスクを読み取りましょう。	伊藤晶文	聴講形式	火	水	
16	人と自然領域	植生地理学・民族植物学	植物から考える地域性とは？	地球上には多くの地域に何かしらの植物が分布します。ただ見ていれば“植物”で終わってしまいますが、その地域ごと、その環境ごとに様々な違いがみられます。これらは野生植物のみではなく、野菜など人間が利用する植物からもわかることです。このような違いは、どのようなところから生まれるのか一緒に考えていきましょう。	小川滋之	聴講形式と実習形式のいずれでも対応可	月、水	火、水（午前）	

No.	領域	専門分野	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
17	人と自然領域	社会科教育学	多様性と共生するとは？	人間が生きるためには、人と人、人と自然との共生が不可欠ですが、地球上の自然環境が多様であるがゆえに、多様な文化が形成され、人間も多様な進化を遂げています。そういう中で、多様性を排除するのではなく、共生していくことは、とても難しいけれど必要です。なぜそれが難しくて、どうすれば、持続可能な共生社会を築いていけるのかということについて、一緒に考えてみましょう。	坪田益美	聴講形式	火（15 時まで）、水（午前）、木（午後）	水（午前）	
18	人と自然領域	自然地理学・環境保全論	地域の自然を守る方法	地形、気候、土壌、植生などの身の回りの自然を、どのように保全していくのか、またどのように破壊されてしまっているのか、各地の事例をもとに考えます。	目代邦康	聴講形式と実習形式のいずれでも対応可	月、火、水、木	水	
19	人と自然領域	津波防災・マングローブ森林生態系	自然災害と防災～災害のメカニズムを学ぶ～	都市環境で発生した災害（主に津波）の事例やメカニズム、防災対策の事例を学び、現代社会における災害への対応方法を考えます。	柳澤英明	聴講形式と実習形式のいずれでも対応可	金	金	

※　「開催曜日」について

(1) 本学の授業開講期間に出張講義を行う際の開催曜日の目安となります。

(2) 「前期」は本学の「前期授業開講期間」を指します。

(3) 「後期」は本学の「後期授業開講期間」を指します。

(4) 開催曜日であっても都合により出席できない場合があります。

(5) 授業休講期間（夏休みなど）の講義開催曜日は不定となります。

(6) 本学の学事暦は本学ホームページ（https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/campuslife/schedule.html）をご確認ください。